子どもの世界を広げる 読み聞かせの体験

「お話玉手箱」の皆さん

読み聞かせは、本に親しみながら子どもに安心感と幸福感を与え、健やかな心の成長を促すと言われています。

国分寺台東小学校で絵本や紙芝居の読み聞かせなどを行っている「お話玉手箱」のボランティアの皆さんに、読み聞かせをする思いや本に親しむことで養われる力を伺いました。

子どもたちの成長を願って

お話玉手箱は、国分寺台東小に通う児童・卒業生の保護者を中心に、現在23人が活動しています。地域の子どもたちの成長を見守る中で何かできることはないかと、17年前から活動が始まりました。

読み聞かせをする大きな目的は、子どもたちが本を楽しんで好きになり、自分でも読んでみたいと思えるようにサポートすることです。

高学年の子どもたちには、世界の貧困のことや学校に行きたくても行けない子もいるなどの、訴えかけるような内容の本を読むこともあります。そうして、本の世界を通じて間接的な体験をすることで、自分の世界や視野を広げていってほしいと思います。

本の世界が養う力

本に触れることで、いろいろな言葉を知り、使えるようになったり、読解力も向上したりと、知性が磨かれていきます。また、自分でイメージを膨らませる訓練となるので、人の気持ちを思いやれるといったコミュニケーション能力の向上にもつながります。

そのほかにも、読み聞かせの時間を持つことで自然と「聞く姿勢」が身につくようです。特に１年生に読み聞かせをすると、4月、5月にはあまり集中できないことが多いのですが、回を追うごとにだんだんと聞く姿勢ができてくるので、驚きます。

家庭でできる読み聞かせのポイント

自分が好きな本や子どもが興味のある内容の本だと、楽しく読めて気持ちも伝わりやすいです。また特に幼児には、同じ本を繰り返し読むと、話の先が見えるので安心して楽しんでくれます。

そして何より大事なことは、自分も子どもと一緒に楽しむことです。読み聞かせをして楽しく心を通わせることが、親子の絆を深めてくれます。

学校行事でも読み聞かせを行っています

図書館に行ってみよう!

中央図書館
松原さん

中央図書館には約77万冊の本が所蔵されています。本や雑誌のほか、DVDやCDなどの視聴覚資料の貸し出しも行っています。また、新聞や雑誌記事などのオンラインデータベースの利用もできます。講演会やお話し会などのイベントも多数実施していますので、本に親しむきっかけに、ぜひ図書館へお越しください。

知っていますか? 図書館の便利な使い方

1.本の予約・リクエスト

他の人に貸出中の本は、予約することができますので、窓口へお申し出ください。また、窓口でパスワードを登録すると、図書館ウェブサイトでも予約ができるようになります。

市内の図書館・図書室に所蔵のないものは市外の図書館から借りたり、購入したりする、「リクエスト」として承ります。リクエストを希望するときは窓口でお申し込みください。

2.レファレンスサービス

「～について調べるにはどんな資料を見たら良いの?どこに相談すれば良いの?」といった、調べものをしたいときに、お手伝いをするのがレファレンスサービスです。日常の中で生じるさまざまな疑問や、研究・学習の課題に対して、解決の糸口になるような資料や情報を提供しています。

中央図書館では、１階第２フロア入り口前に「レファレンスカウンター（相談受付）」のコーナーがありますので、気軽にお声かけください。

未来を拓け! 読書でつながる いちはらっ子 いちぼ

子ども読書活動推進フォーラム

12月7日(土)午後0時50分～4時(午後0時15分開場)

市では、よりよい読書環境づくりを目指し、子どもたちに読書の楽しさを伝えるため、毎年フォーラムを開催しています。子どもから大人まで、読書の魅力を体感できる内容ですので、ぜひお越しください。

会場　東海大学付属市原望洋高等学校 松前記念講堂（能満1531）
人数　先着300人
費用　無料
参加方法　窓口か電話で申し込む。
その他　上履き持参。8カ月～未就学児の託児を実施。先着10人、11月28日(木)までに申し込む。

申込・問合先
中央図書館 ☎(23)4946

第1部 宮西達也さん講演

午後１時からの第１部は『おまえうまそうだな』や『ニャーゴ』などで人気の絵本作家・宮西達也さんの講演。「ニャーゴのやさしさ・ティラノの思いやり」と題し、絵本創作の裏話や作品に込める思いを話します。

第2部 ビブリオバトル

午後2時45分からの第2部では、中学生・高校生の5人の生徒がお気に入りの本を紹介し、観客が読みたいと思った本に投票する、知的書評合戦「ビブリオバトル」を開催。
自分が読んでみたくなる、新たな一冊と出会えるかもしれません!

“ビブリオバトルとは?”

本の紹介コミュニケーションゲーム

①バトラー（発表者）が1人5分間で、お気に入りの本の面白さを発表します。

②それぞれの発表後、観客がその本について質問し、バトラーが答えるディスカッションを行います。

③すべてのバトラーの発表が終わったあと、観客が「一番読みたくなった本」に投票をして、チャンプ本（優勝）を決定します。

いちぼ いちはらポイント対象事業

読書が培う生きる力

読書は趣味や娯楽として、私たちに安らぎや楽しさを与えてくれることはもちろん、新しい知識が習得できたり、言葉の理解力や読解力などの言語力を高めたりもします。さらに、物語の世界に入り間接的な体験をすることで、想像力や表現力が磨かれ、豊かな感性や心が養われます。

また、インターネットをひとたび開けば、さまざまな情報が氾濫している現代社会。情報の真偽や価値を見抜き、有益に活用する力を身に付けることが必要です。そのためには、幅広く本や文章を読むことが大切。読書は適切な情報源を選択する力や、得た情報を評価する力、論理的に考える力を育みます。

このように読書には、私たちが生きていく上で必要とする、社会的活動の基礎となる力を高めるさまざまな効果があります。(右図)

図

家庭での読書環境を大切に

特に子どもにとっては、家庭が一番身近な読書環境であり、自主的な読書習慣の基盤です。

保護者自身の読書への姿勢は、家庭での子どもの読書にも影響を与えます。子どもは、身近な大人が家庭の中で読書を楽しむ姿を見ることで、自然に本を身近なもの、楽しいものと感じます。

子どもがいつでも本を手に取ることができる、読書を楽しめる環境を家庭につくることや、大人も一緒に読書を楽しむことが大切です。

こうした家庭での体験が、読書好きな子どもを育てます。

“読書は自分を知るための鏡”

たからしげるさん

作家さんにインタビュー

市内在住の作家・編集者で多数の著書がある、たからしげるさんに、読書の楽しさやその魅力について伺いました。

自分の想像力を楽しもう

本は、読まないといけないというわけではありません。ですが、本を読み、その世界に入ってみて初めて分かる楽しさや幸せ、というものがあります。

読書は、自分の想像力で世界を構築し、未来や過去、異次元の世界など、あらゆる場所に行くことができます。この想像力の楽しみを味わえることが、読書の一番の楽しさですね。

読書を通じた人間的な成長

読書で特に大事なことは、自分を主人公に重ねて間接的な体験ができるということです。本の世界の中で自分も一緒に冒険でき、まるで自分が体験しているかのように喜びや悲しみ、つらさなどを感じられます。

こうした体験によって、人の心の痛みが分かるなど、人の気持ちがくみ取れるようになり、読書を通じて人間的な成長にもつながっていくと思います。

また、読んだ本を数年後に読み返したときに、当時は分からなかった発見があるなど、自分の成長過程も見えます。その意味で読書は「自分を知るための鏡」とも言える、とても貴重な体験ですね。

面白い本との出会い方

自分が面白いと思える本に出会うには、まずは自分の好きなことや興味のあることが書いてある本を読んでみてください。例えばスポーツや音楽など、好きな世界のことが書いてあれば自然とその内容に集中できますよ。

本との出会いは不思議なものです。好きな著者から選ぶのはもちろん、タイトルが面白かったり、表紙のイラストなどの装丁が素敵だったり、帯のキャッチフレーズが気になったり・・・。そんなちょっとしたきっかけでも、面白い本に巡り合えることがあるんです。

作者の思いを感じ取る楽しみ

世の中には不思議なことや理屈で説明できないことがたくさんあります。私は作品を通して、目に見えない不思議なことでこの世の中は満ちている、そんなことを伝えたいのかもしれません。編集者としても、たくさんの作家の方とお話をしますが、自分の内にある思いを読者に届けたいという気持ちは、皆さん一緒だと感じます。

物語そのものを楽しむことはもちろん、その奥にある作者の思いを感じ取ること、これも読書をする楽しみのひとつではないでしょうか。

たからしげるさん

新聞記者として働くかたわら、1999年に『フカシギ系。①しゃべる犬』(ポプラ社)でデビューし、児童書を中心に多数の作品を発表。絵本や伝記、ノンフィクション作品も手掛けるほか、著名人へのインタビュアーや編集者としても活躍している。

『まぼろしの上総国府を探して』(くもん出版)(写真右)は市原市にあった上総国府をテーマとした作品